

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成31年1月24日 (2019.1.24)

【公開番号】特開2017-130749(P2017-130749A)

【公開日】平成29年7月27日 (2017.7.27)

【年通号数】公開・登録公報2017-028

【出願番号】特願2016-7975(P2016-7975)

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/74 (2006.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

G 0 9 G 3/36 (2006.01)

G 0 9 G 3/34 (2006.01)

G 0 9 G 3/20 (2006.01)

F 2 1 S 2/00 (2016.01)

【 F I 】

H 0 4 N 5/74 Z

G 0 3 B 21/00 E

G 0 3 B 21/14 A

G 0 9 G 3/36

G 0 9 G 3/34 J

G 0 9 G 3/20 6 8 0 C

G 0 9 G 3/20 6 4 2 P

G 0 9 G 3/20 6 7 0 J

F 2 1 S 2/00 3 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成30年12月4日 (2018.12.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

また、本発明においては、前記校正部は、前記電流を予め定められた電流値にしたときに前記センサーが検出した光量と、前記情報取得部が取得した情報が表す光量に応じて前記駆動部が前記光源を駆動しているときに前記センサーが検出した光量に基づいて、前記光源を駆動する電流を校正する構成としてもよい。

この構成によれば、光源が劣化したときに、光源を駆動する電流を構成することができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 7 2 】

アレイ光源 2 1 A が劣化したことにより第 1 の電流値（電流 I 1 0 0）でアレイ光源 2 1 A を駆動したときに、光センサー 1 4 8 0 の測定結果で得られた明るさが L a % に低下し、第 3 の電流値（電流 I s m）でアレイ光源 2 1 A を駆動したときに、光センサー 1 4

80の測定結果で得られた明るさがLb%に低下した場合、第3の電流値における明るさと、第1の電流値における明るさの間の補間演算を行うことにより、一点鎖線で示した電流テーブルを得ることができる。

また、図9の(b)において実線は、出荷時のDutyテーブルを示している。アレイ光源21Aが劣化したことにより第3の電流値(電流Ism)でアレイ光源21Aを駆動したときに、光センサー1480の測定結果で得られた明るさがLb%に低下した場合、Dutyが0%のときの明るさと、Dutyが100%のときの明るさLbの間の補間演算を行うことにより、一点鎖線で示したDutyテーブルを得ることができる。